

第2回 地域防災公園計画検討会

日時：平成28年8月24日 午後7時～8時
場所：海陽町役場3階大会議室

検討会結果概要

○議事

議題1 第1回検討会での議論について

議題2 宍喰地区における防災公園の機能・規模についての検討

議題3 防災公園の候補地の検討

委員からの意見については下記のとおり。

機能・規模について

(委員)

- ・ 阿南安芸自動車道（牟岐～野根）の計画段階評価では、地域で考えられている防災拠点との接続について検討することと決められている。
- ・ 宍喰川に架かる国道55号の橋梁が落橋した場合、宍喰川の南側の住民の方々が、どうやって避難するのかという観点から、事務局（案）では、避難路として海部道路の機能を加えていただいているところ。防災公園への接続だけでなく他の高規格道路でも検討・整備されている津波避難路の整備を、海部道路においても検討していく必要があると考えている。

(委員)

- ・ 宍喰地区は、津波からの避難所が不足している。市街地内で唯一自然の高台である愛宕山は、避難可能な人数が限られている。
- ・ 市街地の中心部は津波避難タワーが完成し、助かる命を助けるということで懸命に取り組んでいる。
- ・ 防災公園の機能の中で一番急ぐべき施設は、命を繋ぐ避難所の整備。
- ・ 今回、公園の機能として、一週間以上滞在が可能な避難所を確保する

よう検討を進めていただいているということで安心している。

- ・ 今後は、その整備スケジュールについて、しっかり議論していかなければならないと思う。

(委員)

- ・ 穴喰地区は2次避難所が圧倒的に足りない。
- ・ 公園の設計にあたり、一つのエリアを時間経過により、様々な機能に利用するといったフレキシブルな考え方は理に適っている。
- ・ 避難場所から仮設住宅に移る際、避難者はコミュニティが分断され、どこへいくかもわからない先の見えない不安感があるが、災害発生直後に避難場所となるエリアを、後に仮設住宅の建設用地に利用することで、この不安は解消されると思う。
- ・ 今後、避難所やヘリポート、応急活動拠点のレイアウトを議論を進めればと思う。

(委員)

- ・ 救援部隊が迅速に活動するためには、東日本大震災や熊本地震の経験から、陸路の救援が必要であると考えている。
- ・ そのためには、被災地まで通行可能なしっかりとした道路が必要であり、海部道路と防災公園の接続が、救援活動の本領発揮に繋がると思う。
- ・ 1時避難所から2次避難所に避難する際の防災公園へのアクセス道路が必要であり、県としても積極的に支援したい。

(委員)

- ・ 避難所のテント設置スペースは一番最初に必要となる。
- ・ 避難者が生活している中で、救急援助隊、自衛隊、警察等の車両・資材搬入や、仮設住宅の建設が行われると想定されるため、避難者が生活しやすいよう、今後面積について検討すべき。

(委員)

- ・ 我々消防団は地域に密着しており、地域の住民や地形等を十分把握しており、災害発生時には大きな力になると自負している。
- ・ 消防団の活動がスムーズに行われるよう、救助対策が行われるための建物を作っただけ、建物の中には情報共有のため、電話、無線等の通信機器を整備していただきたい。

(委員)

- ・ 津波により、市街地の消防団の駐屯所等が無くなったり、浸水したりする恐れがあるため、防災公園内に消防団が使用する車両や資機材を収容できる大きな場所を作っていただきたい。
- ・ アクセス道路については、高齢者も沢山避難されると思うので、上りやすい勾配にしていきたい。
- ・ 津波発生時は、自動車や徒歩にて避難されると思うが、交通事故等防止のため、防災公園へのアクセス道路は車道と歩道を分離して欲しい。

(委員)

- ・ 海陽町役場に災害対策本部が設置されると思うが、防災公園の中に、対策会議ができる場所を設置し、我々も縦横の連絡等がとりやすいよう、消防団の待機場所を設置して欲しい。
- ・

(委員)

- ・ 精神・知的といった障碍のある方は集団生活を送りにくい特性があるため、それに配慮した福祉避難所が必要だと思う。
- ・ 穴喰地区には介護老人保健施設が高台にあるので、災害時には高齢者の方の避難所になると思う。

防災公園の位置について

(委員)

- ・ この地図上で示された中では、川の存在や集落間の距離の観点から、市街地北側地区が自然だと思う。
- ・ 防災公園に接続、連携できる位置に、海部道路を計画する必要があると考えている。

(委員)

- ・ この3つの中でという話であれば市街地北側地区になる。
- ・ 後は、無理なく必要な面積やアクセス道路が確保できるかどうかが課題。

(委員)

- ・ 津波発生時に1次避難所から2次避難所である防災公園へ移動することになるが、おそらく道路啓開ができておらず、瓦礫の上を歩くことや高齢者の避難のしやすさを考えると市街地北側地区が良いと思う。
- ・ まぜのおか等、防災の全体計画の中で考えている支援拠点とのアクセス道も考える必要がある。

(委員)

- ・ 市街地から距離が近いことや、海部道路と接続できる場所であることを考えると市街地北側地区となる。

(委員)

- ・ 各候補地の状況を示すことで、どのエリアが最適がよくわかった。
- ・ 市街地北側地区が一番適していると考ええる。

(委員)

- ・ 地元の消防団としても、市街地北側地区が適当だと考える。
- ・ ここは被災後も海部道路と連携して、他の地区と繋がるのが可能。

(委員)

- ・ 市街地南側地区は宍喰川を渡ることとなるが、落橋等により避難出来ない可能性がある。
- ・ 市街地西側地区は地滑り地区が近くにあり、市街地から距離が遠い。

- ・ 市街地北側地区であれば市街地からも近いし、海部道路のルート帯にも入っているため、良いと思う。

(委員)

- ・ 市街地南側地区は避難経路上に穴喰川があり、落橋した場合は避難出来ない。
- ・ 市街地西側地区は市街地から距離が遠い。
- ・ 市街地北側地区は付近の山間部に町道が整備されており、3方から防災公園へアクセスできるため最適だと思う。

(委員)

- ・ 介護老人保健施設と防災公園との連携の観点からも、市街地北側地区が良いのではないかと考える。